

「ザビエル渡来 450 周年記念シンポジウム」 の開催に当たって

南山大学ヨーロッパ研究センター長

リチャード・ジップル

南山大学ヨーロッパ研究センターは、1995 年 12 月の創刊号の発行以来、毎年当センターの研究成果を『南山大学ヨーロッパ研究センター報』で発表してまいりましたが、今年度で第 6 号を発行する運びとなりました。今年度の特別な行事として、1999 年 12 月 8 日にイスパニヤ科と共催で「ザビエル渡来 450 周年記念シンポジウム」を開催しました。1999 年は、フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教宣教のために渡来してから、450 周年になると同時に、南山大学創立 50 周年でもありました。ザビエルの渡来は日本とヨーロッパとの交流の歴史の始まりでもありますので、この記念すべき年に当り、ヨーロッパ研究センターでこの記念シンポジウムを開催することができたことは、本当に幸いに存じます。また、シンポジウムは南山大学の 50 周年記念事業の一環として開催させていただき、シンポジウムの開会に当たってマルクス学長にご挨拶をいただきました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

シンポジウムの講師として、京都大学助教授エンゲルベルト・ヨリッセン先生、南山大学名誉教授青山玄先生、南山大学文学部教授丸山徹先生にお願いしてそれぞれの専門分野の観点からザビエルの渡来の意義についてお話をいただき、ヨーロッパ研究センター報に掲載させていただきました。先ず、ヨリッセン先生には、「ポルトガルの領土拡張・イエズス会の宣教活動・文化的接触と衝突」を題にザビエルの渡来の歴史的背景についてお話をいただきました。次に、丸山先生には、イエズス会の言語研究というテーマで、日本とヨーロッパの文化交流を言語学の観点からお話いただきました。最後に、青山先生には、「フランシスコ・ザビエルの宣教の背後にある神学思想」について、キリスト教の思想と日本の思想との接触についてお話をいただきました。

「ザビエル渡来 450 周年記念シンポジウム」は 1993 年 12 月の開設記念シンポジウム以来 2 番目の大きな企画でありましたが、今後ともこのようなシンポジウムを開催したいと考えております。最後になりましたが、シンポジウムの計画と進行でイスパニヤ科長兼ヨーロッパ研究センター研究員の木下登先生に特別にご協力をいただき、ここで感謝の意を表したいと存じます。